

広島県の金融経済月報

1. 概況

広島県の景気は、下押し圧力は残るものの、緩やかに持ち直している。

需要項目別に概観すると、公共投資は高水準で推移している。設備投資は緩やかに持ち直している。個人消費は下押し圧力は残るものの、持ち直しつつある。輸出は供給制約の影響から、持ち直しが一服している。住宅投資は横ばい圏内で推移している。

生産は足もと供給制約の影響がみられているものの、全体としては持ち直している。雇用・所得環境をみると、一部に改善の動きがみられるものの、全体としてはなお弱い動きが続いている。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

先行きの景気は、徐々に改善に向かうことが期待されるが、感染症や供給制約などが県内の経済金融情勢に与える影響を引き続き注視していく必要がある。

2. 実体経済

(1) 最終需要の動向

個人消費は、下押し圧力は残るものの、持ち直しつつある。

百貨店・コンビニエンスストア売上高は、持ち直し基調にある。スーパー・ドラッグストア等の売上高は、底堅く推移している。家電販売は、横ばい圏内で推移している。乗用車販売は、供給制約の影響から、持ち直しが一服している。旅行取扱額、主要観光地への入込客数は、持ち直しつつある。

住宅投資は、横ばい圏内で推移している。

設備投資は、緩やかに持ち直している。

公共投資は、高水準で推移している。

輸出は、供給制約の影響から、持ち直しが一服している。

(2) 生産の動向

生産は、足もと供給制約の影響がみられているものの、全体としては持ち直している。

自動車は、供給制約の影響から、持ち直しが一服している。はん用・生産用・業務用機械は、緩やかに増加している。電気機械は、高操業を続けている。造船は、低水準で推移している。鉄鋼は、横ばい圏内で推移している。

(3) 雇用・所得の動向

雇用・所得環境をみると、一部に改善の動きがみられるものの、全体としてはなお弱い動きが続いている。

(4) 物価の動向

消費者物価（除く生鮮食品、広島市）は、前年を上回っている。

3. 金融

(1) 貸出の動向

県内金融機関の貸出金残高（末残）は、前年を上回っている。貸出金利は、低下傾向にある。

(2) 預金の動向

県内金融機関の実質預金残高（末残）は、前年を上回っている。

以 上

本資料はホームページにも掲載しています。

URL <https://www3.boj.or.jp/hiroshima/>

E-mail hiroshima@boj.or.jp